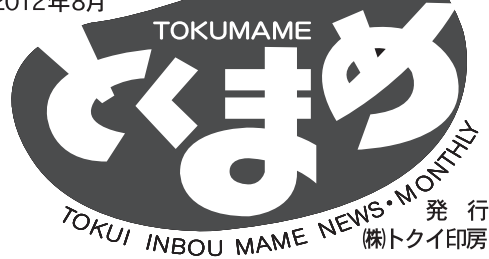


9月号

2012年8月

TOKUMAME



発行  
(株)トクイ印屋

最速ばかりが記録じゃない?!

古き良き時代の、ゆったりしたお話

今回は、またまた、調べものの最中に見つけてしまった、良い話を本紙面の2コーナーに渡って綴ります。

みなさんは、『オリンピッククマラソンの《世界最長記録保持者は日本人》』というトリビアをご存知でしょうか？

それは1912年(明治45)の第5回ストックホルム大会での出来事。当時のフルマラソンは25マイル(40.225k)。初参加の日本から出場した金栗四三(かなぐりしろう)氏はレース途中で意識を失

ってしまいました。というのも、大会当日は記録的な40℃の暑さ。当時、日本からスウェーデンへは二十日ばかり。おまけに当日の迎えの車が来ず、競技場まで走らざるを得なかったのだとか。

そして、倒れた金栗氏は近くの農家で介抱される事になったのですが、さて、レースを離脱してしまっ

た金栗氏は…? 続きは後の「つぶやき」にて。  
(「ウイキペディア」より出展)  
さて、今月もお付き合いのほど!



年末がやってくる!!?



カレンダーの準備は



いかがですか??  
お問い合わせは弊社店頭、担当営業までどうぞ!!

～とくまめ百科事典～



【オリンピックのトリビア】

知られざるオリンピックの真実!!

「第1回大会から、ずう～っと参加し続けている国は、5カ国」  
(ギリシャ、イギリス、フランス、スイス、オーストラリア)

「日本初のオリンピック参加は、第5回ストックホルム大会」  
(マラソンで金栗四三氏が最長記録?!)

「日本初のメダルは、銀メダル」  
(1920年第7回アントワープ大会、テニス:熊谷一也氏)

「日本初の金メダルは、三段跳び」  
(1928年第9回アムステルダム大会、織田幹雄氏)

さて、それから随分経った、1967年(昭和42)75才の金栗氏はスウェーデンのオリンピック委員会より招待されます。ストックホルム大会開催55周年記念式典に。

あの大会で金栗氏は、結局棄権しておらず「行方不明」扱い。彼に、ぜひゴールテープを切ってもらうように招待されたのです。

「日本の金栗ただ今ゴール。記録54年8ヶ月6日5時間32分20秒3。これで第5回ストックホルム大会の全日程終了」とのコール。直後のスピーチで、氏は「長い道のりでした。この間に孫が5人できました」と。

1920年の第1回箱根駅伝開催の尽力など「日本のマラソンの父」と呼ばれ、また熊本県初代教育委員長である氏への、あの記録のコールは、そんな「走り続けていた」彼へのプレゼントだったのでしょうか。(K)

今月のつぶやき

今日はこんな日でした…

- 1953年9月1日= 東京-名古屋-大阪間で“電話”が開通。その59年後、今や電話はパソコン並みに。(昭和28年)
- 1972年9月18日= 旧国鉄、リニアモーターカーの浮上テストに成功。未だに“次世代”とは呼ばれないのは…?(昭和47年)
- 1976年9月6日= 旧ソ連空軍の戦闘機「ミグ25」が亡命目的で函館に着陸。ペレンコ中尉はアメリカへ。(昭和51年)
- 1978年9月15日= モハメド・アリが史上初、3回目のボクシングヘビー級チャンピオン。(昭和53年)
- 1992年9月16日= 宇宙飛行士の毛利衛さん、スペースシャトル「エンデバー」より“宇宙授業”。

●大安日 8/5、11、17、22、28  
9/3、9、15、19、25

E-mail : tokui@co-labo.net  
F A X : 011-611-7172